

## 第4章 ワークショップ

参加青年が主催者となり、参加各国の歴史、文化、伝統やライフスタイル等の紹介を行うワークショップ・セッションを行った。自発的なアイデアによる様々なワークショップがあり、企画、運営の全てが参加青年によって行われ、それらのセッションを通して主催者と参加者の相互理解と親交を深めた。二日間の日程で計11のワークショップが開催された。令和4年2月12日に実施された成果発表では、ワークショップで学んだ成果を全体に発表した。

### 1. ワークショップ一覽

国名	ワークショップの題名	主催者*	ワークショップの目標	ワークショップの概要
オーストラリア	Tucker オーストラリアの食に舌鼓を打つ!	A01 A03	オーストラリアの特に象徴的な食べ物や、歴史と結びついた伝統的な食べ物に焦点を当て、オーストラリアの食文化について参加者に伝えること。	象徴的な食べ物を作りながら、歴史的・文化的な見識を深める食文化紹介。ブッシュフード(オーストラリア内陸の奥地で手に入る食物)、オーストラリアを代表する食べ物、オーストラリアへの移住がこの国の食の風景に与えた影響など、いくつかのトピックを取り上げたセッションを行った。参加者がアクティビティに参加することを目的としたインタラクティブなセッションを二回行った。ダンバーブレッドとフェアリーブレッドを作った。オーストラリアの多様な文化、オーストラリアの景観、昔から土地を所有する人々、そして歴史的な歴史が、私たちが食べるものにどのような影響を及ぼしてきたかを参加者に理解してもらったこと。
日本	日本語で名前を書こう! 武道に挑戦しよう!	J16 J21 J31 J40 J01 J10 J19	参加者に日本文化、漢字とカタカナを伝えること。漢字とカタカナを書くことは、日本文化に触れる簡単な方法の一つであり、自分の名前を漢字やカタカナでどのように書くのかを学ぶ。	導入では、日本語の文字には三種類(ひらがな、カタカナ、漢字)があることを説明した。その後、漢字の構成を説明し、主催者の名前を例にして、漢字にはそれぞれ意味があることを伝えた。実践編では、参加者が自分の名前を漢字とカタカナで書いて楽しんだ。また、各自の名前に使われている漢字の意味も説明した。最後に、日本語で書いた自分たちの名前と一緒に写真を撮った。
			参加者と共に空手を楽しむこと。柔道、空手、なぎなた、剣道の四つの武道についての説明。空手の基本的な練習方法(突き・蹴り)の紹介。 ・空手の基本動作の練習とその使い方のコツを指導。	・日本の伝統的な武道精神と、柔道、空手、なぎなた、剣道の四つの武道についての説明。 ・空手の基本的な練習方法(突き・蹴り)の紹介。 ・空手の基本動作の練習とその使い方のコツを指導。

\*主催者欄には参加青年のIDを掲載



ホーランド青年による「ホーランド国内のボランティア団体について」の発表の様子



スウェーデン青年による「文字やゲームを通してスウェーデンとスカンジナビア古語を学ぼう」の発表の様子

ワークショップ主催者として、この経験から何を得たか	参加者の声
参加者を惹きつけ、誰もが気持ちよく質問やコメントをできる方法を学んだ。参加者が理解できるように、ゆつくり、はっきりと話すことを心がけた。食の紹介であっても、歴史や移民の動向を通じて、社会問題や多文化国家であるオーストラリアの特徴を説明する役割を果たすことができた。調理時間の短縮と参加者への情報提示をより充実させるために完成品を用意することになり、プレゼンテーションの内容を追加することになった。自分たちで考え、その場で行動し、チームとして協力する方法を学んだ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリアの食や歴史について、一般には知られていないことを学んだ。</li> <li>既に知っているオーストラリアを代表する食品について、楽しく見て学ぶことができた(例: ペジマイト、タイムタム)。</li> <li>ブッシュフードや伝統的な食べ物について学ぶことができた。</li> <li>料理のデモンストレーションを楽しんだ。</li> </ul>
マネジメントやハバロポイントのスキルなど、ワークショップの運営方法を学ぶことができた。オンラインで様々な国の参加者とワークショップを行うことができたのは貴重な機会となった。日常的に何気なく使っている漢字を英語で伝える方法を学んだ。また、事前登録をしていない参加者が予想以上に多かったり、参加者によってはネットワーク状況が不安定になるなど、想定外の事態への対処法も学んだ。そのような状況でも、できるだけ参加者に楽しんでほしいながらも、ワークショップを開催することを心掛けた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の名前を漢字で書くことを楽しみ、その意味を学んだ。</li> <li>漢字の歴史について知ることができた。</li> <li>事前登録の有無にかかわらず、漢字とカタカナの両方を楽しんで使った(事前登録者: 漢字を使用、未登録者: カタカナを使用)。</li> </ul>
プロジェクトマネジメント能力(チーム管理、時間管理、プロジェクト計画、タスク管理)。 ・ワークショップを主催するために、組織的にスケジュールを管理すること。 ・英語でのプレゼンテーション能力(外国人参加者に日本文化をどう伝えるか)。 ・オンラインツール(Zoom, canva, Youtube, google slide)を活用するスキル。	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道を全く知らずに参加したが、武道の種類や空手の練習の基本を学ぶことができた。</li> <li>上段回し蹴りは難しかったが、前蹴りはできるようになった。</li> <li>体を動かしてリアプレッシュすることができた。</li> </ul>

国名	ワークショップの題名	主催者*	ワークショップの目標	ワークショップの概要
日本	オンラインコースで世界を元気に！ SWYからのメッセージ	J04 J13 J35 J36	新型コロナウイルス感染症の影響で、最近ではみんなが歌うことができなくなっている。日本の音楽文化を紹介し、参加者と音楽について語り合うことを目標とした。ワークショップのメイン曲は「上を向いて歩こう」であり、世界を、そして参加者全員を元気づけたいという思いが込められている。また、成果発表に向けてみんなが合唱のビデオを作成すること。	主に、日本の音楽文化と日本の有名な歌「上を向いて歩こう」を紹介した。そして、この曲を全員で歌い、最後にそれぞれの好きな音楽について話した。ワークショップの後、SWY Online参加者からビデオや画像をもとらってコーラスビデオを作成し、成果発表で披露した。
	Why Japan? 日本のビジネス文化を理解するための道	J12 J22 J32	・国際化社会に対応するため、ビジネス慣習の多様な文化的背景を理解すること。 ・国際的なキャリア形成のための様々なビジネス慣習を知ること。	ワークショップは、参加者の国のビジネス文化を表す言葉交換することから始めた。その後、就職活動、キャリア形成、日常習慣の三つの観点から日本のビジネス文化を紹介した。プレゼンテーションでは、応募、転職、上司とのコミュニケーションについて意見を申し合った。事例紹介の後、過重労働の考え方の共通点と相違点について話し合い、経験を共有した。
ニュージーランド	ニュージーランド体験 ・オアフアロア ・ニュージーランド	N01 N03	参加者全員に歴史、文化、伝統を通して、情報満載で魅力的な方法でニュージーランドを体験してもらうこと。	参加者がニュージーランドの中から、訪れてみたい場所を選び、グループ内で共有するというアクティビティを行い、ニュージーランドについて学んでもらう一例とした。歴史の基礎を紹介し、歴史的基盤や女性に初めて選挙権を与えた国であることなど、象徴的な出来事を説明した。最後に、参加者全員が先住民であるマオリ族の言語テ・レオ・マオリにて自己紹介を意味するpepehaを声に出して練習した。
オマーン	アラビア文化	O01 O02 O04	・アラブ文化を学ぶこと。 ・異文化に関わるプログラムの中で、自国文化を他の参加者と共有すること。 ・アラブの習慣やアラビア語の美しさを知ってもらうこと。	今回のプログラムは異文化交流ということで、アラブの習慣やアラビア語の美しさを紹介しながら、私たちの文化を参加者に伝えた。まず、オマーンの服装を紹介し、アラブ人の歓迎の習慣やアラビア語での名前の書き方について話した。最後に、アラビアの装飾を施したしおりの作り方を学んだ。

\*主催者欄には参加青年のIDを掲載

ワークショップ主催者として、この経験から何を得たか	参加者の声
異なるバックグラウンドを持つメンバーと一緒にプロジェクトを作り上げるという体験を通して、ワークショップの準備過程で仲間になり、徐々にお互いを理解することができた。また、参加者との双方向の関係を通して、セッションをより良い場にすることもできた。チームワークを学ぶことができ、新しい仲間と一緒に作業を行うことは楽しかった。また、音楽は言葉の代わりとなる良いコミュニケーションツールであり、たとえ言葉が通じなくとも、歌ったり、踊ったり、楽器を演奏したりすることで、コミュニケーションを取ることができるということを学んだ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の音楽を知ることが楽しかった。いろいろな種類の音楽やセッションで歌った歌はとてすばらしいかった。</li> <li>音楽は言語を介さない国際交流の最も素晴らしい方法である。</li> <li>海外の音楽教育を知り、日本の名曲が海外でも知られていることに喜びを感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の雇用制度や働き方の歴史と理由を理解した。</li> <li>オマーンとロシアの参加者から、転職や過重労働に対する意識を学んだ。</li> <li>発表の際、選択質問にすることで参加者とすぐに交流できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアカウンセラーの仕事にとっても役に立った。</li> <li>日本での就職を夢見ているので、現実を知る良い機会になった。</li> <li>日本企業はスキルよりもポテンシャルを重視する傾向があるなど、インターネットでは得られない内容を知ることができたことが一番よかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてZoomでプレゼンテーションをするという経験ができて、本当に新鮮だった。初対面の人とどう接するかを学ぶ良い機会となった。</li> <li>海外の方へのワークショップは初めてだったが、参加者が成果を得る魅力的な内容にすることができ、成功したと思う。ワークショップ主催者として、目的を達成できたと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションが良かったかどうかが聞いたところ、全参加者が画面越しに親指を立てて「楽しかった」と言ってくれた。多くの人が参加してくれて、本当に楽しかった。</li> </ul>
参加者にオマーンの文化を伝え、交流することによって、いつの日か彼らをおマーンに招待したいと思うようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アラビア語の名前の書き方が気に入った。</li> <li>オマーンの文化が好きになった。</li> <li>オマーン人の服装が好きになった。</li> </ul>

ワークショップ主催者として、この経験から何を得たか	参加者の声
<p>主催者としては、他国でのボランティア活動の様子を聞くことができ、嬉しく思った。世界各国の人道的活動の共通点や相違点を知ることができ、とても充実した時間を過ごした。異なる意見を聞き、異なる視点で物事を見ることでできたことで、今後、最善の方法で人々を助けるためのプロジェクトを構成することができるだろうと信じている。</p>	<p>参加者はこのトピックに関心を持っていた。実際、参加者の大半はさまざまな活動に従事しており、このテーマについて話す機会を持てたことを非常に喜んでいた。セッションのオープンな雰囲気や、誰もがオープンマインドでアイデアを出せることを楽しんでいた。参加者がどれだけの多くの共通点を持っているかを知ることが、とても興味深いことであり、この経験は実りあるものだった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップでは、どんな状況でも道を切り開くことができるということを学んだ。人の持つ魔法や、人間としてのつながりを知ることができた。</li> <li>冗談を交えて説明をすると、人は情報を記憶しやすいということを知った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアの文化、特に地元の習慣や伝統について多くを学ぶことができた。言語だけでなく、この美しい国の豊かさを発見できたことは素晴らしいことだった。</li> <li>ロシア語で自分の名前の書き方を学び、またロシアに関するクイズを作ったりして、とても素敵な時間を過ごした。ロシア代表団に感謝。</li> <li>ロシア語の文字は英語と少し違うので難しかったが、自分の名前が少し違った書き方で表現され、特別な感情を抱くことができ、貴重な体験になった。日記にロシア語で自分の名前を書いた。</li> <li>自分の名前をロシア語で書けるようになりたいとずっと思っていたので、とても楽しかった。また、クイズで、ロシアの文化についてたくさん知ることができ、とても魅力的なワークショップだった。</li> </ul>
<p>チームワークを発揮する良い機会となった。チームとして協力することで、タスクを達成する可能性が高まることを、ワークショップ・セッションで目の当たりにし、体験することができた。チームとして、全員のアイデアを尊重し、作業を始める前に計画を立てることの重要性に気づいた。また、私たちはそれぞれ異なる才能を持っており、適材適所の重要性を知った。私たちが得た経験は、一生価値のあるものとなるだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本当に楽しかったが、とてもスバイシーでおいしそうだった。家でも作ってみたい。シンハラ語講座を聞いてくれてありがとう。</li> <li>語学の授業は素晴らしい。新型コロナウィルス感染症が治まった後にぜひスリランカに行きたい。教えてもらった単語やフレーズは本当に役に立ちそうだ。</li> <li>スリランカの食習慣がよくわかった。私は辛いものが大好きなのでいつかスリランカに行きたい。</li> <li>スリランカは思った以上に驚きの連続だった。ワークショップで作った料理は、美味しそうで、よいビデオだった。</li> </ul>
<p>苦労した分、楽しく、参加者の反応もよかった。時間管理はもちろんのこと、準備や発表の構成も重要だと感じた。今回の経験は、プレゼンテーションや参加者を惹きつけることを通じて、自分たちのリーダーシップや組織力を向上させる良い機会となった。クイズなどのゲームを通して、参加者が楽しんでいける様子を見ることができ、楽しい方法で参加者を盛り上げる重要性を感じた。また、メンバー一人ひとりが体調を崩しても、全員がプレゼンテーションやスライドにアクセスできるようにしておいたのは、とてもよかったです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容の濃い素晴らしいワークショップだった。</li> <li>タイムマネジメントが素晴らしい。</li> <li>パルウェイトに書いた内容だった。</li> <li>プレイアウトルームの活用が上手であった。</li> <li>アクティビティ間の移行がスムーズであった。</li> <li>チームワークが素晴らしい。</li> <li>ルーン文字で、楽しく自分の名前を書いた。</li> <li>スウェーデンや少数民族について楽しく、興味深く学ぶことができた。</li> <li>スウェーデンへの関心が高まった。</li> <li>楽しいワークショップであった。</li> </ul>

ワークショップの概要	ワークショップの目標	主催者*	ワークショップの題名	国名
<p>ワークショップでは、まず、ポーランドのボランティア組織を紹介した。その多くは、困難な家庭の子どもたちが通う学校や、孤独になりがちなホームレスなど、様々な環境における人道支援活動に従事している。主催者の一人は、「noble gift」という活動で他者に手を差し伸べた経験を話した。ワークショップの後半では、ディスカッションが行われ、多くの参加者が自国での人道的活動について語り、私たちの視点や解釈にとって実り多いものとなった。</p>	<p>ポーランドにおいて困っている人を助けるという経験と思いやりを参加者と共有すること。世界中の人々とどだけ共通点があるのかを知り、有意義な時間を過ごすこと。また、さまざまな人道的活動に対する認識を高め、それについて議論すること。</p>	<p>P01 P02 P03 P04 P05</p>	<p>ポーランド国内のボランティア団体について</p>	<p>ポーランド</p>
<p>R01が挨拶と感謝を参加者に述べ、ワークショップの内容を簡単に説明した。次にR03が、漫画や本のキャラクターとして有名なエプラーシカについて説明した。R02がロシアにまつわる興味深いクイズを出題し、その答えにコメントをし、それぞれのトピックについて詳しく説明を行った。その後、R01が参加者に2種類のロシア語のアフイベントを説明し、R02が参加者の名前をロシア語でチャットボックスに入力し、参加者がそれを転記していった。最後に、全員がロシア語で自分の名前が書かれた紙を持って、スクリーンショットを撮影した。</p>	<p>参加者にロシアの文化、歴史、ライフスタイルにおける最も重要な特徴を知ってもらうこと。また、ロシアについて親しみを持ってもらうこと。</p>	<p>R01 R02 R03</p>	<p>現代と伝統のツールを用いたロシア文化の特集</p>	<p>ロシア</p>
<p>SL03の歓迎の挨拶でワークショップを始めた。次に、クッキングセッションの録画ビデオを流し、材料や作り方を分かりやすく紹介した。ビデオで紹介された食材についての多くの質問が参加者から寄せられ、それらの疑問に答えた。その後、SL02による言語教室が始まり、スリランカでよく使われる主な単語10個を紹介し、発音の練習をした。参加者はより多くの単語を知ることができた。参加者にも対応した。全体として大成功に終わり、チームとして実施して本当によかった。</p>	<p>参加者にスリランカの文化を紹介すること。 スリランカ料理や食習慣のユニークさを紹介すること。 言語を介しての文化交流を実施すること。 スリランカを身近に感じてもらい、参加するSWYメンバーと深い友好関係を築くこと。</p>	<p>SL01 SL02 SL03 SL04 SL05</p>	<p>アジアの奇跡の島・スリランカ</p>	<p>スリランカ</p>
<p>SW01 SW02 SW03 SW04 SW05</p>	<p>スウェーデンの文化や伝統を詳しく伝え、少数民族の権利保護に関するディスカッションを行い、参加者が自分のアイデアや考えを貢献できるようにすること。</p>	<p>SW01 SW02 SW03 SW04 SW05</p>	<p>文字やゲームを通してスウェーデンとスキャンナビア古語を学ぼう！</p>	<p>スウェーデン</p>

\*主催者欄には参加青年のIDを掲載